

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
河原医療大学校		平成19年3月30日		佐山 浩二		〒 790-0005 (住所) 愛媛県松山市花園町3-6および3-19 (電話) 089-915-5355		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 河原学園		昭和60年10月21日		河原 成紀		〒 790-0001 (住所) 愛媛県松山市一番町一丁目1番地1 (電話) 089-943-5333		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		看護学科		令和 2(2020)年度	-	平成29(2017)年度	
学科の目的		医療現場で活躍する実践的な看護師を養成して、地域医療に貢献することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		常に感謝の心を持ち、看護に必要な知識・技術・態度を修得し、豊かな人間性を養いながら、変化する社会に対応できる看護実践者を育成することを目指し、他学科との合同授業や多様な保健・医療・福祉施設での実習を通してチーム医療を学び、多くの卒業生が大病院を中心に就職し地域医療に貢献している。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		129 単位		81 単位	11 単位	23 単位	0 単位	14 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
120 人	116 人		1 人		1 %	3 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 38 人							
	■就職希望者数(D) : 38 人							
	■就職者数(E) : 38 人							
	■地元就職者数(F) : 28 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 74 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %							
	■進学者数 : 0 人							
	■その他							
	各担任が履歴書の添削・面接練習を指導し、希望の医療機関に就職できるようサポートしている。							
(令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 愛媛県内医療機関等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価 : 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	<a href="https://medical.kawahara.ac.jp/academics/nurse/">https://medical.kawahara.ac.jp/academics/nurse/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A : 単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B : 単位数による算定)							
	総単位数				129 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				23 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
	うち必修単位数				129 単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				23 単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					4 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人		
	計					9 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					9 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の職業教育のモデルは、業界の実務動向、社会の変化がその基盤になければならない。したがって教育課程の編成においては、業界及び社会の変化やニーズ、在校生及び卒業生の仕上がり状況等の不断の組織的、継続的検証を行う必要がある。企業等から広く、具体的に意見を求め、高度で実践的な教育課程を編成するために、新たな授業科目の開設における連携はもちろんのこと、現存のシラバスやコマシラバスにまで落とし込める授業内容・方法の改善並びに教材開発につながる連携を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は、教務系会議の中核的委員会として位置づけ、前期末、後期末の総括会議(科目検討、シラバス検討、コマシラバス検討、授業法検討など)において、計画上の可否、実行上の可否判断に関連外部実務家の意見をたえずフィードバックさせる会議体として機能させることとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 千鶴	公益社団法人 愛媛県看護協会 常務理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
宇高 さとみ	一般財団法人永頼会 松山市民病院 看護副部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
野本 ひさ	愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 教授	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	②
吉野 一弘	公益社団法人 愛媛県理学療法士会 副会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
森川 真也	医療法人順天会 放射線第一病院 リハビリテーション部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
毛利 雅英	株式会社愛媛リハビリ 一般社団法人はなぶさ会 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
田部井 陽	医療法人誠志会 砥部病院 作業療法士	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
西岡 信治	一般社団法人 愛媛県歯科医師会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
今村 加奈子	愛媛県立中央病院 歯科衛生士	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
松田 勝年	一般社団法人 愛媛県歯科技工士会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
谷本 享陽	有限会社 谷本歯研 代表執行役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
西田 雄司	一般財団法人永頼会 松山市民病院 総務部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
田村 純子	松山赤十字病院 医療情報管理課 課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
佐山 浩二	河原医療大学校 学校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
吉村 誠	河原医療大学校 副学校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
阪本 紀子	河原医療大学校 看護学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
大濱 和馬	河原医療大学校 理学療法学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
日野 公広	河原医療大学校 作業療法学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
松井 寛子	河原医療大学校 歯科衛生学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
佐伯 淳也	河原医療大学校 歯科技工学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
桑田 みゆき	河原医療大学校 診療情報管理学科 学科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)  
②学会や学術機関等の有識者  
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)□

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月16日 16:00～17:00

第2回 令和7年3月15日 16:00～17:00□

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

背景と意義

教育課程編成委員会では、学生が「看護は大変」ではなく「人を支える喜び」や「やりがい」を感じられる教育の必要性が指摘された。看護の楽しさを実感する経験は、自己効力感や職業的アイデンティティの形成に寄与し、卒業後の離職防止にもつながる。そこで、看護の魅力を学びの中で実感できる教育環境の整備を進めることとした。

主な取り組み・改善案

臨地実習では、学生へのポジティブフィードバックを意識的に行い、卒業生や現場看護師の体験談を通して「看護のやりがい」を伝える機会を設ける。

実習後の振り返り(リフレクション)を重視し、学生が「自分で気付き、考える力」を育む学びを推進する。

学生の意見や気付きを実習・授業内容の改善に反映し、教育課程編成委員会で継続的に検証する仕組みを導入する。

臨地と学校の連携を強化し、卒業生や現場看護師との交流会を通じてロールモデルに触れる機会を継続的に設ける。

今後の課題

学生アンケートや実習評価をもとに、本取り組みの効果を検証し、「看護の楽しさを実感できる学び」をさらに教育課程全体に反映させることを次年度の課題とする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 企業等と連携した実習等は、1)学生が校内における通常の実習等では得ることが難しい実践的、専門的な知識や技術等を習得する場であり、さらには2)学習してきた知識や技術の理解度、習熟度を再確認し、3)企業等の関係者から具体的で実践的な評価を得て、学生の実務能力を多面的に開発する機会とする。また実務能力の習得のみならず、その機会を通じて、学校の実習カリキュラムがより実践的な内容になるよう努めることとする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 臨床実習では医療従事者を目指す学生が実際に患者と対面し、診察や実際の治療、カルテの書き方、コミュニケーションのとり方などを目の当たりにすることで臨床での患者とのやり取りを勉強するため行っている。原則として厚生労働省が定める指定規則に従って各専門領域別で複数の医療機関と連携し、校内での座学や実習から学ぶことのできない実践的な技術を現場での指導者等の指導や患者との関わりの中で修得する。実習の成果に関する評価は実習指導者によってなされ、合格基準に満たなかった学生については、指導者と協議の上、不足点などを学内教員よりフィードバックし、再実習にて合格を支援する。□			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎看護学実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	対象者の療養生活の場である環境を理解し、対象者とのコミュニケーションから、健康に障害をもつ人を包括的に捉えるために必要な人間関係能力を養う。更に対象者の日常生活援助の実際を通し、今後の看護実践に対する動機を高めることを目的とする。	一般財団法人永頼会 松山市民病院
基礎看護学実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	健康に障害をもつ人を包括的に捉え、問題解決技法としての看護過程の各段階の基礎能力を習得し、対象者への援助に繋げることを目的とする。	社会医療法人 仁友会 南松山病院
成人看護学実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	成人期の各健康レベルにある対象者を理解し、個別性に合わせた看護過程の展開方法と看護実践の基礎を習得することを目的とする。成人看護学実習ⅠⅡⅢで、急性期(周手術期)、回復期、慢性期、終末期の対象者を受け持ち学習する。□	独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター
成人看護学実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	成人期の各健康レベルにある対象者を理解し、個別性に合わせた看護過程の展開方法と看護実践の基礎を習得することを目的とする。成人看護学実習ⅠⅡⅢで、急性期(周手術期)、回復期、慢性期、終末期の対象者を受け持ち学習する。□	社会医療法人同心会 西条中央病院
成人看護学実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	成人期の各健康レベルにある対象者を理解し、個別性に合わせた看護過程の展開方法と看護実践の基礎を習得することを目的とする。成人看護学実習ⅠⅡⅢで、急性期(周手術期)、回復期、慢性期、終末期の対象者を受け持ち学習する。□	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校の教員研修の基本方針は、1)各教員の専攻分野における実務に関する高度な専門知識・技術の修得、2)およびそれらを授業計画(カリキュラム、シラバス、コマシラバス)に落とし込む能力の修得、3)さらにはその研鑽を実際の授業運営に反映させる教育力の修得を目的として、教職員研修規程第2条に定める研修を受講させることとする。同規程第3条に定めたとおり、所属長及び法人本部総務部責任者は、各教員の実務専門性や教育力の組織的で継続的な向上に努めることとする。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	愛媛県病院看護部長・教務責任者協議会	連携企業等: 愛媛県病院看護部長・教務責任者
期間:	2024年7月8日(月)	対象: 教員1名
内容	愛媛県の精神保健医療福祉の取り組みを学ぶ	
研修名:	第34回学術集会 地域包括ケア時代の看護学教育	連携企業等: 日本看護学教育学会
期間:	2024年8月19日(月)20日(火)	対象: 教員1名
内容	改正カリキュラムにおける地域・在宅看護学の位置づけと取り組みについて学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	2024年度第114回看護師試験対策教員セミナー	連携企業等: さわ研究所
期間:	2024年4月13日(土)	対象: 教員2名
内容	看護師国家試験の現状と動向をふまえ、看護教員に求められる効果的な国家試験対策指導について学ぶ	
研修名:	2024年度第114回看護師試験対策教員セミナー	連携企業等: 照林社WEBセミナー
期間:	2024年5月14日(火)	対象: 教員1名
内容	看護師国家試験の現状と動向をふまえ、看護教員に求められる効果的な国家試験対策指導について学ぶ	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	訪問看護の基礎講座	連携企業等: 公益財団法人日本訪問看護財団
期間:	2025年4月18日～12月4日	対象: 教員1名
内容	訪問看護の基礎的知識を学ぶ	
研修名:	Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション	連携企業等: 医学書院
期間:	2025年4月	対象: 教員1名
内容	認知症のBPSDに対する評価と介入戦略について学ぶ	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	看護に活かすストレスマネジメント	連携企業等: 日本精神科看護協会
期間:	2025年7月3日～2026年2月26日	対象: 教員1名
内容	ストレスの定義、ストレスのメカニズム、ストレスの心身への影響、マネジメントを学ぶ	
研修名:	学生の主体的な取り組みを促す授業づくり	連携企業等: MCメディカ出版
期間:	2025年7月	対象: 教員1名
内容	学生のやる気の引き出しや主体的な取り組みを促す関わり方について学ぶ	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本学全般の運営(経営、教育の現状、およびそれらの短・中・長期課題や方針、社会的責務など)について、学校関係者より意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを基本方針とする。

※参考 自己点検評価における達成度の評価

S:達成度が高い A:ほぼ達成している B:達成がやや不十分であり、若干改善を要する C:達成は不十分で改善を要する”□

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念、目的、人材像、将来構想、他
(2)学校運営	学校組織の位置付け、役割分掌、意思決定機関の位置付け、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業計画、履修判定、教務管理、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定および評価・検証(在学率、退学率、休学率、出席率、資格試験合格
(5)学生支援	就職目標設定および評価・検証、就職支援、他
(6)教育環境	専修学校設置基準、厚生労働省指定規則・法令遵守、健康診断、他
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ方針の明示、パンフレット・募集要項、入学者選考、学生納付金、他
(8)財務	会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準、厚生労働省指定規則・法令遵守、学則、就業規則、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動、他
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会からの意見を踏まえ、本校では、学生が小さな成功体験を積み重ねながら自信を育む教育環境の充実に努めている。特に診療情報管理学科では、全国平均を20%以上上回る高い合格率という成果を上げており、教員の丁寧な指導や学生同士の支え合いの成果として高く評価された。一方で、歯科技工学科においては、少人数ゆえに一人の結果が大きく影響する状況が課題として示され、今後は学習支援の個別化とメンタルケアの充実を図る必要があるとの指摘を受けた。これらの意見をもとに、教職員間で情報を共有し、国家試験に向けた学習面・生活面のサポート体制をさらに強化するなど、教育内容と支援体制の改善に継続的に活用している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

		令和7年4月1日現在	
名 前	所 属	任期	種別
上岡 征司	松山市新玉公民館 館長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	地域住民
正木 彰	学校法人済美学園 済美高等学校 教頭	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高等学校関係者
松田 勝年	一般社団法人 愛媛県歯科技工士会 会長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
高橋 克明	ケアプラス株式会社 作業療法士	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業等委員
武智 信子	保護者代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者等
荒本 香織	保護者代表	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者等
古岡 由衣	日本赤十字社 松山赤十字病院 歯科衛生士	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
兵頭 弘起	医療法人団仲会 奥島病院 リハビリテーション室 主任	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL:https://medical.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/7/2025/10/学校関係者評価報告書\_河原医療大学校\_2025年度.pdf

公表時期:2025 年 10 月 11 日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
本校職業実践専門課程においてより実践的かつ専門的な高度職業教育を行う観点から、企業・業界団体等より業界における人材の専門性に関する動向や求められる知識・技術等について意見を聴き、これを踏まえてカリキュラムや教育方法の改善・工夫に組織的、継続的に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の理念、目的、人材像、将来構想、他
(2)各学科等の教育	学校組織の位置付け、役割分掌、意思決定機関の位置付け、他
(3)教職員	業界の人材ニーズに沿った教育、授業計画、履修判定、教務管理、他
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育目的達成に向けた目標設定および評価・検証(在学率、退学率、休学率、出席率、資格試験合格
(5)様々な教育活動・教育環境	就職目標設定および評価・検証、就職支援、他
(6)学生の生活支援	専修学校設置基準、厚生労働省指定規則・法令遵守、健康診断、他
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ方針の明示、パンフレット・募集要項、入学者選考、学生納付金、他
(8)学校の財務	会計監査、財務情報公開
(9)学校評価	専修学校設置基準、厚生労働省指定規則・法令遵守、学則、就業規則、他
(10)国際連携の状況	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動、他
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法  
ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( )  
URL:https://medical.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/7/2025/05/自己点検評価報告書\_2025.pdf  
公表時期:2025 年 5 月 30 日

授業科目等の概要

(医療専門課程 看護学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・技 実習・実	校内	校外	専任	兼任	
1	○			統計学	ある状況のもとで得られた事実の普遍性、再現性、客観性を持たせる手段を理解し、医療現場で遭遇する問題の科学的な解決や看護研究に統計学を用いることができる。	1年・後期	15	1	○			○			○	
2	○			情報科学	情報、情報科学、コンピューターに関することを学び、看護実践や研究に利用することができる。	1年・前期	30	2	○			○			○	
3	○			教育学	教育の目的・方法、及び家庭教育・社会教育・障害者教育の概要を理解することにより、看護における健康教育の基盤ができる。	1年・前期	30	2	○			○			○	
4	○			論理学	現代日本語の文章を今一度見つめ直し、教養ある社会人にふさわしい国語表現力を習得する。	1年・前期	15	1	○			○			○	
5	○			医学英語	医療現場での会話や医学英文を通じて、看護に関する英語のリスニング・リーディング・ライティング力を養う。	1年・前期	30	2	○			○			○	
6	○			心理学	心理学的概念、心理学の基礎を学び、人間の心の働きや行動との関係を理解する。	1年・前期	30	2	○			○			○	
7	○			社会学	社会的行為や構造・個人と社会相互作用の関係といった、社会学の基礎を学び、それら社会的ものの見方を用いて看護職として現実社会を理解・把握できる力を養う。	1年・後期	15	1	○			○			○	
8	○			人間関係技術論	看護技術の意味と位置づけが理解できる。人間関係成立、対象の理解のための技術として、観察・コミュニケーションの基礎が理解できる。医療、看護の記録の基礎を理解し説明できる。	1年・後期	30	2	○			○			○	
9	○			家族論	家族をめぐる事情が変化する中、家族の機能や役割を理解し、家族支援の理念と方法を学ぶ。	1年・後期	15	1	○			○			○	
10	○			形態機能学Ⅰ	本科目では、実践の科学である看護学の土台となる人体の構造と機能について基礎基本を学習する	1年・前期	30	2	○			○			○	
11	○			形態機能学Ⅱ	本科目では、看護学の土台となる人体の構造と機能について基礎基本を学習する。	1年・前期	30	2	○			○		○		
12	○			形態機能学Ⅲ	本科目では、看護学の土台となる人体の構造と機能について基礎基本を学習する。	1年・後期	30	2	○			○			○	
13	○			生化学	生体の生命活動と恒常性を科学的に理解し、調整機能を学ぶ。三大栄養素（糖質・脂質・蛋白質）の構造と代謝、障害時の症状や回復機序を理解する。	1年・前期	30	2	○			○			○	
14	○			臨床栄養学	栄養学を基礎に、健康維持・疾病予防・治療、とくに生活習慣病に関する栄養知識を学び、自らの健康管理を通して看護力を高める。	1年・後期	15	1	○			○			○	
15	○			病態学概論	病態生理を理解するための基礎知識として、病理学総論的な内容をまとめ、その後人体の生理機能を勉強し、生体防御にかかわる事を学習する。	1年・前期	15	1	○			○			○	
16	○			疾病治療論Ⅰ	本科目では、呼吸・循環・血液造血器の病態生理・機能障害について扱う。	1年・後期	30	2	○			○			○	
17	○			疾病治療論Ⅱ	本科目では、消化管・肝臓、内分泌、免疫、生殖器の病態生理と機能障害について扱う。	1年・後期	30	2	○			○			○	
18	○			疾病治療論Ⅲ	本科目では、脳神経・感覚器、運動器、腎泌尿器の病態生理と機能障害を扱う。	1年・後期	30	2	○			○			○	
19	○			治療論	手術・放射線・薬物療法とその合併症、麻酔の種類、臓器移植、侵襲的検査、小児の外科的治療について理解する。	1年・前期	15	1	○			○			○	
20	○			薬理学	薬物療法の科学的根拠、薬効の発現機序、作用特性、有害作用などを系統的に理解し、看護の立場から服薬前及び服薬後の患者に留意する点が説明できる。	1年・後期	30	2	○			○			○	
21	○			微生物学	病原微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。	1年・前期	15	1	○			○			○	
22	○			臨床推論演習	臨床現場で遭遇する様々な事柄について、様々な知識や経験に基づいて解釈や分析を行い、理解する。	2年・前期	30	1		○		○		○		
23	○			公衆衛生学	健康問題を個人と集団レベルで捉え、疾病予防、健康増進のための健康管理について、個人を取り巻く環境要因に注目し、保健・医療・福祉の立場から健康問題に対応できる考え方を身に付ける。	3年・後期	30	2	○			○			○	
24	○			関係法規	わが国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、その中で看護職の占める位置と役割を理解する。	3年・前期	30	2	○			○		○		
25	○			社会福祉論	現代社会の生活問題に対応し、生存権を保障する社会福祉を理解する。さらに、社会福祉と医療・看護の連携の重要性とその現状を学ぶ。	3年・前期	30	2	○			○			○	
26	○			看護学概論	看護の対象である人間を全体的に理解し、看護の機能・役割と活動の概要を学ぶ。さらに、保健・医療・福祉における看護の役割や看護倫理、法的課題を理解する。	1年・前期	30	2	○			○		○		
27	○			看護研究演習	将来の看護の発展に役立てよう看護研究に取り組むことで、現場の課題を深く考える力や客観的にとらえる力を身につける。	2年・後期	30	1		○		○		○		

28	○			基本技術Ⅰ	主要概念や人間理解の中から看護の目的やその役割を理解して、科学的根拠に基づいた看護実践のための知識と原理・原則に基づいた看護技術の習得、看護師としての基本的態度を養う。	1年・前期	60	2				○	○		○				
29	○			基本技術Ⅱ	本科目は、基礎看護学「基礎看護技術」に属し、「基本技術：対象把握の技術」を教授する。基礎看護技術は、基本技術Ⅰ・Ⅱ、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、看護過程展開技術、診療補助技術の4科目で構成されている。	1年・後期	30	1				○	○		○				
30	○			生活援助技術Ⅰ	本科目では、基礎看護技術の中の「生活援助技術：清潔・衣生活の援助技術」について学ぶ。	1年・前期	30	1				○	○		○				
31	○			生活援助技術Ⅱ	本科目では、基礎看護技術の中の「生活援助技術：食事・排泄の援助技術」について学ぶ。	1年・前期	30	1				○	○		○				
32	○			診療補助技術	本科目は「基礎看護学」に属し、与薬・診察・検査・処置など診療補助の技術を講義と演習で学び、実践的理解と模範の習得を目指す。	1年・後期	30	1				○	○		○				
33	○			看護過程展開技術	看護の展開方法 看護の概念や専門機能の学習を踏まえ、援助ニーズを判断し、計画・実施・評価を重ねつつ、看護実践を展開する技術を理解する。	2年・前期	30	1				○	○		○				
34	○			臨床看護総論	生活者と家族の視点で看護の対象を理解し、対象者のニーズに応じた看護を学ぶ。継続看護や指導・教育、主要症状や治療処置別の看護を理解し、学内実習で救命処置、死後のケア、ICU機器の基礎を習得する。	1年・後期	30	2	○				○		○				
35	○			地域看護論	健康と生活の関係や健康課題の変化、保健活動の実践を学び、あらゆる場ですの暮らしを支える看護の視点と継続性を考えられる力を養う。	1年・後期	30	2	○				○				○		
36	○			在宅看護概論	社会的背景を踏まえ、在宅療養者と家族を支える在宅看護の目的と特徴を理解する。「その人らしい生活」を考え、在宅ケアにおける看護の役割とチーム医療を学ぶ。	2年・前期	15	1	○				○			○			
37	○			在宅看護援助論Ⅰ	在宅看護の対象である療養者と家族を理解し、その支援方法を学ぶ。在宅看護の位置づけと考え方を踏まえ、看護師の役割を考える。	2年・前期	30	2	○				○					○	
38	○			在宅看護援助論Ⅱ	在宅療養者とその環境に応じた生活援助技術を学び、安全・安楽な在宅療養を支える看護を理解する。主な疾患と看護の特徴、施設内との違いを踏まえ、その人らしい生活を支える看護を考える。	2年・後期	30	2	○				○					○	
39	○			在宅看護技術	在宅看護の展開の特徴を理解できる。療養者および家族の思い・わがいを中心においた看護の展開を考えることができる。療養者と療養者を取り巻く環境の中での看護の役割が理解できる。	3年・前期	30	1				○	○					○	
40	○			地域・在宅看護特論	医療処置を必要とする在宅療養者とその家族が安全・安楽に在宅療養を継続するために必要な看護を理解する。	3年・後期	30	1				○		○			○		
41	○			成人看護学概論	成人の成長発達の特長、役割、健康問題を理解する。成人の生活行動と身体機能を関連させた上で、看護を説明することができる。成人の学習者としての特徴を踏まえた健康教育や患者教育のあり方について説明することができる。	1年・後期	15	1	○				○			○			
42	○			成人看護学援助論Ⅰ	手術侵襲と生体反応を理解し、手術前・中・後の看護や術後合併症の予防を学ぶ。さらに、放射線療法や検査を受ける患者の看護を理解する。	1年・後期	30	2	○				○			○			
43	○			成人看護学援助論Ⅱ	呼吸機能障害をもつ対象者への看護を理解する。循環機能障害をもつ対象者への看護を理解する。血液・造血機能障害をもつ対象者への看護を理解する。	2年・前期	30	2	○				○			○			
44	○			成人看護学援助論Ⅲ	栄養代謝機能障害を持つ対象者の看護を理解する。内部環境調節機能障害を持つ対象者の看護を理解する。生体防御機能障害を持つ対象者の看護を理解する。性・生殖機能障害を持つ対象者の看護を理解する。	2年・前期	30	2	○				○			○			
45	○			成人看護技術	成人期にある急性期・回復期の看護過程の展開の基礎を学ぶ。急性期・回復期の対象者に対して、根拠に基づいた安全・安楽な看護技術を応用する能力を養う。	2年・後期	30	1				○	○			○			
46	○			成人看護学特論	放射線療法、検査、呼吸機能障害、循環機能障害、血液・造血機能障害をもつ対象者への看護を理解する。	3年・後期	30	1				○		○			○		
47	○			老年看護学概論	老年期の特徴や加齢による変化と生活への影響を理解し、老年者の健康や社会的背景、個々のライフスタイルを踏まえた実像を学ぶ。	1年・後期	15	1	○				○			○			
48	○			老年看護学疾病論	老年期に特有な疾病、障害について理解する。障害・疾病をもつ老年者への看護について理解する。	2年・前期	30	2	○				○			○			
49	○			老年看護学援助論	老年者が日常生活を送る中での生活機能に焦点をあてた看護を理解する。老年者が個々のセルフケア能力に応じて可能な限り自立した生活を送るための援助方法を理解する。	2年・前期	30	2	○				○			○			
50	○			老年看護技術	健康障害をもつ老年者に必要な看護援助の基礎知識及び技術を修得する。老年者に代表的な疾患に対する看護過程を展開する。	2年・後期	30	1				○	○			○			
51	○			老年看護学特論	老年期に特有な疾病、障害について理解する。障害・疾病をもつ老年者への看護について理解する。	3年・後期	30	1				○		○			○		
52	○			小児看護学概論	子どもと家族の看護の概念、子どもの成長と発達について理解する。	1年・後期	15	1	○				○			○			
53	○			小児看護学疾病論	小児医学の領域について、病態生理、臨床症状、臨床所見、鑑別診断、治療を理解する。	2年・前期	30	2	○				○					○	
54	○			小児看護学援助論	健康障害が子どもと家族に与える影響と、その看護について理解できる。	2年・後期	30	2	○				○			○			
55	○			小児看護技術	様々な発達段階にある子どもと家族の状況を理解した上で、対象者に応じた根拠ある安全な看護技術を提供するための基礎的能力を養うことができる。	3年・前期	30	1				○	○			○			
56	○			小児看護学特論	小児医学の領域について、病態生理、臨床症状、臨床所見、鑑別診断、治療を理解する。	3年・後期	30	1				○		○			○		
57	○			母性看護学概論	母性概念や母性性・父性性の発達、社会構造による変化を理解し、リプロダクティブヘルス／ライツの視点から母性看護の役割と将来を考える。	1年・後期	15	1	○				○					○	



58	○		母性看護学援助論Ⅰ	妊娠・分娩・産褥期の母子の身体的・心理的・社会的特徴と母性援助のあり方について理解できる。各期の家族力動の変化、母性・父性役割形成の支援について理解できる。	2年・前期	30	2	○		○		○		
59	○		母性看護学援助論Ⅱ	周産期の母体、胎児、新生児の異常について理解できる。妊娠の生理と病理、生殖医学、分娩、産褥の生理と病理、新生児の生理と病理、産科処置、産科手術など看護師として必要な知識と看護の実践が理解できる。	2年・後期	30	2	○		○		○		
60	○		母性看護技術	妊娠・分娩・産褥期、新生児期の援助に必要な母性看護技術の習得ができる。周産期の看護過程の特徴とウエルネス看護診断が理解でき、正常経過の看護過程の展開が理解できる。	3年・前期	30	1		○	○			○	
61	○		母性看護学特論	母性看護、地域・社会構造に視野におく母性看護の役割・機能、将来展望について考える事ができる。	3年・後期	30	1		○		○			○
62	○		精神看護学概論	心の働きとしくみ、その様々なひずみ、それらへの対応などを心そのもの、周囲を取り囲む人との関係、さらに社会の対応など幅広い視点から理解することができる。	1年・後期	15	1	○			○		○	
63	○		精神看護学疾病論	精神疾患の原因を脳の器質、内因、心因から学ぶ。精神障害の症状、精神疾患の診断と治療法について理解する。	1年・後期	30	2	○			○		○	
64	○		精神看護学援助論	精神疾患をもつ人の看護、地域で生活する精神障害者への援助を精神障害者の人権と生活を支える視点を持って学習することができる。	2年・前期	30	2	○			○		○	
65	○		精神看護技術	プロセスレコードを通し、精神障害者と接するときの技法、自分の傾向を理解する。精神障害者と接するときの観察、情報収集、アセスメントを学び、看護問題の抽出と看護計画を立案することができる。	2年・前期	30	1			○	○			○
66	○		精神看護学特論	精神疾患の原因を脳の器質、内因、心因から学ぶ。精神障害の症状、精神疾患の診断と治療法について理解する。	3年・後期	30	1			○		○		○
67	○		医療安全	ヒューマンエラーの概念と特性が理解できる。リスクアセスメントを行なうための、リスクに関する基礎的知識を学ぶ。	1年・前期	15	1	○				○		○
68	○		災害・国際看護	災害医療・看護の基礎を理解し、災害が健康や生活に及ぼす影響を学ぶ。災害サイクルに応じた看護の役割や、国際的な健康課題への関わりを考える。	3年・後期	30	1			○			○	
69	○		看護管理	看護管理の目的・機能・業務内容を理解し、看護の質の評価方法を学ぶことで、効果的な管理・マネジメントを行う基礎力を養う。	3年・前期	15	1	○				○		○
70	○		地域包括ケア論	1つの症例をテーマにグループディスカッションを行いながら、看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの専門性を発揮しながら協働するチーム医療を学ぶ。	2年・後期	15	1	○				○		○
71	○		統合技術演習	頻度の高い診療補助技術やチーム医療を学び、安全な医療・看護を提供する判断力と実践力を養い、臨床現場で活かせる力を身につける。	3年・前期	30	1			○	○			○
72	○		看護の統合Ⅰ	頻度の高い診療補助技術やチーム医療を学び、安全な医療・看護を提供する判断力と実践力を養い、臨床現場で活かせる力を身につける。	3年・前期	30	1			○		○		○
73	○		看護の統合Ⅱ	頻度の高い診療補助技術やチーム医療を学び、安全な医療・看護を提供する判断力と実践力を養い、臨床現場で活かせる力を身につける。	3年・後期	30	1			○		○		○
74	○		基礎看護学実習Ⅰ	実習により、学びを深める	1年・後期	45	1				○		○	○
75	○		基礎看護学実習Ⅱ	実習により、学びを深める	2年・後期	90	2				○		○	○
76	○		地域看護論実習	実習により、学びを深める	2年・前期	90	2				○		○	○
77	○		在宅看護論実習	実習により、学びを深める	3年・前期	90	2				○		○	○
78	○		成人看護学実習Ⅰ	実習により、学びを深める	2年・後期	90	2				○		○	○
79	○		成人看護学実習Ⅱ	実習により、学びを深める	2年・後期	90	2				○		○	○
80	○		成人看護学実習Ⅲ	実習により、学びを深める	3年・前期	90	2				○		○	○
81	○		老年看護学実習	実習により、学びを深める	2年・後期	90	2				○		○	○
82	○		小児看護学実習	実習により、学びを深める	3年・前期	90	2				○		○	○
83	○		母性看護学実習	実習により、学びを深める	3年・前期	90	2				○		○	○
84	○		精神看護学実習	実習により、学びを深める	2年・後期	90	2				○		○	○
85	○		統合実習	実習により、学びを深める	3年・後期	90	2				○		○	○
合計					85	科目				129	単位（単位時間）			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	修了試験は60点以上の得点により修了認定する。すべての科目を修了することが、卒業要件となっている。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	全ての科目において、3分の2以上の出席があることが修了認定試験を受験する要件であり、満たしていない者は修了認定試験を受験することができない。	1学期の授業期間	15週

- （留意事項）
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
  - 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。